



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 防虫科学 1973, 38(3)

ISSUE DATE:

1973-08-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/158807>

RIGHT:

防虫科学

季刊

第 38 卷—III

原 著

18. イエバエ *Musca domestica nebulosa* Fabr. 蛹に施用した不妊剤の効力発現
Musharraf A. ANSARI.....125
19. 不妊剤施用イエバエ *Musca domestica nebulosa* Fabr. における不妊効力の持続性
Musharraf A. ANSARI.....129
20. イエバエにおける不妊化の誘発
Musharraf A. ANSARI.....135
21. イエバエのアルキル化および非アルキル化不妊剤に対する抵抗性スペクトラム
Musharraf A. ANSARI.....143
22. ハスモンヨトウ性フェロモンの室内生物試験法
玉木佳男・野口 浩・湯嶋 健.....147
23. ハダニの Dicofol 抵抗性の作用機構 (第2報)
ミカンハダニ雌成虫における Dicofol 代謝物の TLC による同定
田畑勝洋・斎藤哲夫.....151
24. 札幌市内と北海道離島におけるイエバエの殺虫剤感受性について
林 晃史・長谷川 恩.....155

綜 説

- 日本におけるイエバエの殺虫剤抵抗性の現状について
林 晃史.....158
- 高等植物に含まれる抗菌性物質
大東 肇・三井哲夫.....165

抄 録

.....164, 180

書 評

.....146

財団法人 防虫科学研究所

京 都 大 学 内

昭和48年8月

防 虫 科 学

編 集 委 員

主 幹 武 居 三 吉

藤 田 稔 夫 深 海 浩 井 上 雄 三 石 井 象 二 郎

中 島 稔 高 橋 史 樹 高 橋 正 三 内 田 俊 郎

投 稿 規 定

1. 防虫科学に関する研究報文、綜説ならば誰でも投稿できる。ただし原稿の取捨は編集委員会できめる。また原稿の字句については加除修正を行なうことがある。
 2. 報文は邦文または欧文とし、邦文には欧文の、欧文には邦文の要約を添える。表題、著者名および所属機関名などは邦文・欧文両者を併記する。
 3. 邦文原稿は原則としてA4判横書原稿用紙(400字詰)を用いる。欧文はタイプライター用紙にタイプライターでダブルスペースに打つ。邦文原稿の写真、表および図の説明は欧文とする。
 4. 邦文は平かな、新かな使いとし、欧語音読には片かなを用いる。ただし物質名、人名などは欧文のままとする。図は白紙または青線方眼紙にいいいに墨書し、原稿とは別紙とする。不完全な図はトレーシング費用を負担してもらうことがある。
 5. 動植物の学名の下には _____ を付ける(例: *Chilo suppressalis* イタリックとなる)。和名は片かなを用いる。数字はすべてアラビア数字を用い、数量の単位はメートル法による。単位および術語の略字は本既刊誌を参照されたい。
 6. 句読点、カッコは1画を与える。ハイフンは区画の罫線の上に明瞭に書く。本文中の引用文献番号はカッコを付けて肩に小さく書く。文献は報文の最後に通し番号の順に列記し、著者名、雑誌名(書名)、巻、頁、年号の順に記し、巻数には _____ を付ける(例: (1) Stevenson E. and G. R. Wyatt: Archs. Biochem. Biophys. 99, 65, 1966)。邦文雑誌名は日本化学総覧、欧文雑誌名は Chemical Abstracts, Biological Abstracts の規定の略名に従う。
 7. 校正は原則として初校に限り著者が行なう。
 8. 別刷は50部贈呈する。それ以上の希望数に対しては50部を単位とし、実費を申受ける(当分刷上がり1頁6円の計算による)。
 9. 原稿の送付には送状を付し、発送年月日、連絡先、原稿枚数、写真および図・表数、別刷希望数などを記入する。原稿の郵送は書留とし、校正は速達とする。
- 投稿その他の編集に関する連絡は下記にされたい。

606 京都市左京区北白川 京都大学農学部

農業研究施設 石井象二郎 (075) 751-2111 内 6 3 0 5

賛 助 会 員

小 林 政 株 式 会 社
三 共 株 式 会 社
住友化学工業株式会社

大日本除虫菊株式会社
武田薬品工業株式会社

維 持 会 員

アース製薬株式会社
宇部興産株式会社
大阪化成株式会社
大塚製薬株式会社
ソエコン課
科研化学株式会社
化研工業株式会社
花王石鹼株式会社
協和醗酵工業株式会社
キング化学株式会社
クミアイ化学工業株式会社
呉羽化学工業株式会社
サンケイ化学株式会社
三洋化成工業株式会社
塩野義製薬株式会社
大正製薬株式会社
高砂香料工業株式会社
株式会社立石春洋堂
トモノ農薬株式会社

長岡駆虫剤製造株式会社
長瀬産業株式会社
日産化学工業株式会社
日本化薬株式会社
日本曹達株式会社
日本特殊農薬製造株式会社
日本農薬株式会社
フマキラー株式会社
北興化学工業株式会社
三笠化学工業株式会社
三菱瓦斯化学株式会社
八洲化学工業株式会社
株式会社柳本製作所
山本農薬株式会社
吉富製薬株式会社
ライオンかとり株式会社

(五十音順)

昭和48年8月25日印刷 昭和48年8月31日発行

防虫科学 第38巻—III 定価 ¥ 800.

個人会員年1500円 団体会員年3000円 外国会員年U.S. \$6

編集者 藤田稔夫 石井象二郎

606 京都市左京区北白川 京都大学農学部

発行所 財団法人 防虫科学研究所
京都市左京区北白川 京都大学農学部内
(振替口座・京都5899)

印刷所 昭和印刷
京都市下京区猪熊通七条下ル

“SCIENTIFIC PEST CONTROL”
BOTYU-KAGAKU

Bulletin of the Institute of Insect Control

Editor Sankichi TAKEI

Editorial Board

Toshio FUJITA, Hiroshi FUKAMI, Yuzo INOUE, Shojiro ISHII,
Minoru NAKAJIMA, Fumiki TAKAHASHI, Shozo TAKAHASHI, Syunro UTIDA

CONTENTS

Originals

18. Development of Sterility Through Pupal Treatments in *Musca domestica*
nebulo Fabr. Musharraf A. ANSARI.....125
19. Permanency of Sterility Effects of Chemosterilants in *Musca domestica*
nebulo Fabr. Musharraf A. ANSARI.....129
20. Induction of Sexual Sterility in Indian Housefly, *Musca domestica*
nebulo Fabr. Musharraf A. ANSARI.....135
21. Resistance Spectrum of Alkylating and Non-Alkylating Compounds in
Musca domestica nebulo Fabr. Musharraf A. ANSARI.....143
22. Laboratory Bioassay Method of the Sex Pheromone of *Spodoptera litura* (F.).
Yoshio TAMAKI, Hiroshi NOGUCHI and Takeshi YUSHIMA.....147
23. Mechanism of Dicofof Resistance in Spider Mites II
Thin Layer Chromatographic Identification of Dicofof Metabolites
in Citrus Red Mite, *Panonychus citri* MCGREGOR.
Katsuhiko TABATA and Tetsuo SAITO.....151
24. The Resistant Level of the Housefly to Several Insecticides in Sapporo
City and Isolated Islands in Hokkaido.
Akifumi HAYASHI and Megumi HASEGAWA.....155

Review

The Resistant Level of the Housefly to Several Synthetic Insecticides in Japan.
Akifumi HAYASHI.....158

Antimicrobial Substances in Higher Plants.
Hajime OHGASHI and Tetsuo MITSUI.....165

Abstracts

.....164, 180

Book Review

.....146

Published by
THE INSTITUTE OF INSECT CONTROL
Kyoto University
Kyoto, Japan